



野菜研究所ニュース

№ 16 2016.10

あおもりの未来
技術でサポート

青森県産業技術センター 野菜研究所

<掲載記事>

- 三沢五中生、インターンシップ
- 野菜専門技術強化研修
- SP抗線虫資材中間検討会
- ナガイモ高品質安定生産技術研修会
- 台風・豪雨被害
- にんにく高品質安定生産技術研修会
- 公開デー
- ナガイモネットの綱渡り！ イイエ、生育調査中



7月19日 葉が倒れると
タマネギの収穫適期

三沢五中生、インターンシップに

7月5・6日の2日間、当研究所に、昨年に引き続き、三沢五中から2名がインターンシップ（職場研修）にみえました。主に、ニンニクの収穫や調査の体験をしてもらいました。当研究所の研究員が、野菜の品種、栽培法、貯蔵法、病害虫防除管理について解説し、実際に体を動かしての調査を行いました。

今後の2人の成長と働くことの意義を見いだせることを期待しつつ、我々も、あらためて仕事の取り組みについて考える良い機会でした。



ニンニクほ場で収穫作業 調査用のサンプリングを体験する三沢五中生

野菜専門技術強化研修

7月25日、当研究所において、各地域県民局農業普及振興室、野菜研究所から計28名の参加を得て、野菜第1回目の専門技術強化研修ながいも栽培技術研修会が開催されました。野菜研究所からはナガイモ・ニンニクの品種育成などについて紹介し、各地域からは調査研究について紹介いただきました、今後も試験研究への要望など意見交換を行うことにしています。



活発な意見交換の様子

SIP抗線虫資材中間検討会

8月1日三沢市においてセンチュウ対策を野菜研究所と共同で研究する沖縄を含む九州の民間会社、大学、農研機構の研究者を迎え、これまでの成果と今後の研究方針について検討し、確認しました。翌2日は野菜研の研究実施状況を見学しました。



説明を聴く共同研究ユニットメンバー

ながいも栽培技術研修会

8月4日、当研究所において、県関係機関、JA全農あおもり、各農協から計4名の参加を得て、ながいも栽培技術研修会が開催されました。平成28年産ナガイモについて、生育状況や管理のポイントについて指導者向けの研修会を行いました。

当研究所からは作況の生育や防除管理について解説し、生育が良好であることが示されました。



台風・豪雨被害



8月18日 表面を削り取られたほ場



8月18日 支柱が傾いた試験ほ場

8月中下旬青森県をたてつづけに台風、豪雨が襲いました。野菜研究所においても写真のように、被害が発生しました。表に示した台風と豪雨の4日間の降水量は326.5mmにのぼり、14日の1日だけで、平年の8月ひと月の降水量133mmを上回っています。ナガイモの場合、支柱の倒伏といった被害のほかに、イモの形状に影響が出ることが予想されます。

表 野菜研究所で観測された最大瞬間風速と降水量

襲来日	台風	日最高最大瞬間風速	1日の降水量
8月17日	台風7号	21.7m/s	141.5mm
8月23日	台風9号	22.1m/s	57.5mm
8月27日	—	10.0m/s	71.0mm
8月30日	台風10号	33.3m/s	56.5mm



8月18日 トタン板が外れた堆肥場



8月18日 事務所正面の植木が倒伏

3つの研究所が合同で公開デー

9月9日、当研究所と農産物加工研究所において、近隣の市民の皆様ら400名余りの方がおみえになりました。

あいにくの雨模様でしたが、ながいもの
技」をテーマにしたミニ講座やパネル展示で
技術を紹介しました。相談コーナーでは、研
究員に今困っていることや来年に向けての
注意点を熱心に質問していました。恒例の野
菜販売は大盛況でした。中には車の荷台
いっぱい詰めて、帰られるお客様もいらっ
しゃいました。共催のにんにく共進会では
農家の皆様が丹精込めてつくった立派なニ
ンニクが並んでいました。



にんにく高品質安定生産技術研修会

9月2日、当研究所において、県関係機関、JA全農あおもり、各農協から計48名の参加を得て、恒例のにんにく高品質安定生産技術研修会が開催されました。平成28年産ニンニクについて、生育状況や今後の管理についての理解を深めていただくための指導者向けの研修会を行いました。

当研究所からは今主任研究員が作況ほの状況とテンパリング乾燥の効果と乾燥チェックシートの活用について、新藤研究管理員が、チューリップサビダニの生態と防除について説明しました。



チューリップサビダニの生態についての説明

ナガイモネット綱渡りの達人紹介！ イイエ、実は生育調査中

